

めざす子ども像

- ◆夢に向かって自ら学ぶ人
- ◆人とのつながり（絆）を大切にする人
- ◆誇りを持ってふるさとを語れる人

<現状把握>

- ◆基礎的な学力定着の改善を図るとともに、学ぶことの楽しさや意義が実感できる学びの機会が求められている。また、主体的に考え、行動する力の基盤を育んでいくことが大切である。
- ◆苦手なことやうまくいかないことに向き合いにくい児童も見られることから、一人一人の困り感に寄り添い、安心して学べる多様な支援の充実が求められている。
- ◆元気で活動的な児童が多い。対話やコミュニケーションを通して、他者への意識を高め、自他のよさを知り、認め合ったり折り合いをつけたりする力を育てていくことが大切である。
- ◆多様化、複雑化する教育課題の解決や授業改善に向けて、日常の職務を通した学びや、効果的な研修を重ね、職員一人一人の資質・能力を高めていくことが求められている。

【学校教育目標】

子どもも大人も笑顔いっぱいの学校 ～主体的に学び続ける子どもの育成～

Team Ujitawara 「全職員がすべての子どもの伴走者」

目標達成のために 「環境を通した教育を重視」

～ 3つの間（時間・空間・仲間）と物的・人的環境 ～

すべての子どもの学びを保障

- ▶学校をすべての子どもにとってやりたいことのある場所にする
- ▶子どもの困り感に寄り添い、多様な学びの機会を創出
- ▶一人一人の実態に応じた合理的配慮の推進

試行錯誤、失敗とやり直しができる環境

- ▶あきらめずにねばり強く取り組む力の育成
- ▶「できた」「わかった」という成功体験の積み重ね
- ▶「Try&Error Error&Learn」失敗とやり直しができる風土の醸成

直接体験、本物体験ができる環境構成

- ▶子どもの知的好奇心をくすぐる体験活動の充実
- ▶実社会や地域とつながる本物に触れる学びの推進
- ▶問いをもとに深める探究的な学習活動の重視

ICT機器の効果的な活用

- ▶ICTを子どもの意欲や学びを高める手段として活用
- ▶学習の過程や成長の変容を可視化
- ▶可視化された情報と教師の直接観察を両輪とした指導・評価

チーム担任制・教科担任制を生かした指導体制

- ▶チーム担任制や一部教科担任制により複数の教員による指導・支援
- ▶職員間の情報共有を通した、組織的・継続的な子ども理解
- ▶個々のよさや課題を多面的に捉え、チームで子どもの成長を支える

相手意識の醸成、他者との協働、人権意識の高揚

- ▶直接的なかかわりを通して、よりよい人間関係を築く力の育成
- ▶他者と協働しながら課題に取り組む学習活動の充実
- ▶互いの違いを認め合い、自他を大切にする人権意識の育成

考える場面、自己決定・自己調整できる場面設定

- ▶自ら考え、選び、判断する自己決定・自己調整の場面の確保
- ▶話を正確に受け止める「聞く力」の育成
- ▶対話を通して考えを深める話し合い活動の充実

つながりを意識した教育の充実（架け橋期）

- ▶保育所・幼稚園との円滑な連携の推進
- ▶子どもの育ちと学びをつなぐ、「架け橋期」の教育の充実
- ▶小学校生活への円滑な接続を意識した、連続性のある指導

大切にしたい姿勢

◎目的を大人も子どもも共有・共感

「何のために」を共に理解し、同じ方向を向いて学びと活動を創り出す。

◎まなざしは「たし算思考」

子どもの育ちと学びの一貫性・連続性を大切にし、できていること・積み重ねを基盤に捉える。

◎指導は「始動」を促すこと

教え込むのではなく、子どもが自ら動き始めるきっかけをつくっていく。

◎学びの主語は子ども

一方的な「指示」から「支持」へと転換し、任せることと支えることのバランスを大切にする。

◎言葉かけは「3つのH」

ほめる・はげます・広げるといふ、子どもの意欲や思考を前へ押し出す言葉をかける。

◎気づきは、次の「One Action」へ

気づきを次の一步につながる具体的な行動に移す。

すべての
土台

安全で安心できる環境（心の居場所・人との信頼関係）

人権意識の高揚 魅力ある学校・学級づくり 相談しやすい環境づくり